

フアハハハ！ 医療危機は国民全員が考え、取り組むべき課題。この特集で上手な医療のかかり方を学ぶことをすすめてやるぞ

上手な医療のかかり方



デーモン閣下
悪魔。アーティスト。和の伝統芸能との共作活動を30年間超展開。広島県がん検診啓発特使、早大相撲部特別参加。当「懇談会」に多様な意見を反映させるため構成員として要請される。

『いのちをまもり、医療をまもる』 国民プロジェクト5つの方策』

- 1、患者・家族の不安を解消する取組を最優先で実施すること
- 2、医療の現場が危機である現状を国民に広く共有すること
- 3、緊急時の相談電話やサイトを導入・周知・活用すること
- 4、信頼できる医療情報を見やすくまとめて提供すること
- 5、チーム医療を徹底し、患者・家族の相談体制を確立すること

5つの方策の実行には、我々が来年度以降も継続的にコミットして進捗をチェックし続けます



「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」の構成員と、新谷正義厚生労働大臣政務官(上段右から4人目)

悪魔界から吾輩も加わったぞ



「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」を開催し、方策を宣言する

「ちょっと具合が悪くなったので、とりあえず病院や診療所にかかっている」……ちょっと待つて！ 本当にそのような「かかり方」で問題はないのでしょうか。不要不急の夜間受診や軽症での受診は、患者にとっても医師にとってもマイナスになることもあります。このような現状を踏まえ、国は昨年10月から「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」を開催。そこで宣言された『いのちをまもり、医療をまもる』国民プロジェクト宣言』と、意外と知られていない「上手な医療のかかり方」をご紹介します。

